

報告

世界天文年 全国同時七夕講演会の報告

～ダイニクアストロパーク天究館・京都コンピュータ学院の場合～

作花一志（京都情報大学院大学）

1. ことの起こり

「こんなことを計画しているんですけど、実行委員になってもらえませんか。」

「う～ん、面白そうだけどこの時期は晴れないでしょうね。」

花山天文台の柴田一成さんとこんな会話をしたのは4月7日(火)、ちょうど実施3ヶ月前でした。世界天文年の行事として同時に数千人に天文の話を聞いてもらおうという企画です。話はどんどん膨らみ、主催日本天文学会、共催天文教育普及研究会と決まり、連休明けには80ヶ所以上で講演会が行われることとなっていました。

イベント開催でいつも苦勞するのは人集めです。マスコミ、ロコミ、そして「天文教育」にも、5月号に松村会長の呼びかけ文が載りました。

2. 7月4日 滋賀にて

ダイニクアストロパーク天究館の高橋館長にメールして開催を呼びかけたところ、音楽会と同時開催しようということになりました。参加者は約50名、高年者が多かった！

第1部は太田耕司さん（京大宇宙物理）の講演「七夕の星、銀河系、銀河宇宙」。七夕の星より始まり our Galaxy の構造、そして galaxies 生成へと展開します。講演後の質問で「宇宙人はいるのでしょうか？」「2億光年彼方の銀河から本当に2億年前に光が発した証拠はあるのですか？」はいいとして、「その研究は実際にはどんなことに役立つのでしょうか？」は想定外でした。

第2部は大矢牧子（ピアノ）さん、門田裕子（ソプラノ）さんによるコンサートで、モーツァルト「きらきら星変奏曲」、ショパン「英雄ポロネーズ」、ガーシュイン「サマータイム」、ディズニー「星に願いを」等々。

第3部の夜間観望会は参加者が入れ替わり、約30名のうち大半が小学生で、薄雲を通して月と環のない土星を60cm鏡で眺めました。

3. 7月7日 京都にて

蒸し暑い夕方、中学校高校は期末試験、本学院の学生も学期末でレポートに追われているところ・・・参加人数は予想通り約20名で、学外からの参加者は例によって熟年組でした。

普通の天文講演より本学院らしい特徴のあるものにしようということで、ガリレオの業績や日食観察法の紹介はそこそこに済ませ「天文フリーソフトの活用法」の解説と実習を行いました。自作のソフトを始めいろいろと詰めたCDを使い、おみやげに渡します。PC実習では本学院の教員や学生にアシストしてもらいましたが、やはり簡易マニュアルを作っておくべきでした。好評だったのは惑星が周転円を描く自作の「天動説シミュレーション」とフリーソフト Stella Theater による2009年7月22日11時の奄美の空の再現でした。

フィナーレは「見上げてごらん夜の星を」を全員で斉唱しました。You Tube の中に見つけた坂本九と平井堅のデュエットというありえない組み合わせをBGMとして。